

# 「旭川工業高等専門学校数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に係る自己点検・評価

点検評価改善委員会 R4.3.22

評価項目	自己評価案	評価結果	コメント
プログラムの履修・修得状況は良好であるか？ また、問題がある場合、どのような対策を考えているか？	履修者の状況は、クラス担任や所属学科の教員において情報共有している。また、教務委員会においても、学生の履修・単位取得の状況を取りまとめ・把握に努めており、履修上、支障がある学生への配慮も行ってきた。さらに、オンライン授業や対面授業においてもICTを積極的に活用し、教員のコスト削減や学生の利便性向上に取り組んでいる。 履修率の改善については、新カリキュラムの展開にあわせ、令和3年度以降の入学生を対象にプログラムの対象科目を見直す。これにより、新カリキュラムの展開が進むにつれ、履修率が向上する予定である。	A	
プログラム履修学生の学修成果は十分な成果をあげているか？ また、問題がある場合、どのような対策を考えているか？	授業担当者および教務委員会において履修・単位取得の状況は把握されている。また、継続的に授業評価アンケートを実施している。本アンケートを確認する範囲では、受講した学生の理解度などは高く、学習成果があるように伺うことができる。さらに、履修者の総合成績評価は学内の学生総合情報システムにて管理され、クラス担任や所属学科の教員に情報共有している。	A	
プログラム履修学生の学習内容の理解度は十分なものであるか？	履修学生に対し、授業評価アンケートを実施し、教務委員会にて集約・分析が実施されている。アンケート集計結果は科目担当者にも共有され、授業内容の改善等に活用されている。また、この結果は学内および学生にも公開されており、学生が教育プログラムを選択するための一助となっている。 さらに、今年度は1クラスのみではあったが、外部試験である「ITパスポート」を受験し、教育効果の有効性の検証を行った。その結果が揃い次第、教育プログラム改善に利用する予定である。	A	
プログラム履修学生の満足度はどのようなものか？ また、他の学生への推奨度は高いか？	学生による授業評価アンケートは継続的に実施され、学生にも公開されている。実際に教育プログラムの履修を選択する際には、このようなアンケート結果等が活用されているようである。 一方、教育プログラムについては履修説明会での説明やホームページ等を通じての広報により徐々に認知度も向上している。今後は、授業以外の課外の活動として、数理データサイエンス・AIに関わる学生向けのイベント等を開催し、より一層学生からの関心が高まるようにすることを検討している。	A	
プログラムの全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画は検討しているのか？	令和3年度入学生からの新カリキュラムの適用に伴い、全学生が本プログラムを必修科目として受講する予定である。令和2年度在籍の学生においては、本プログラムにおける履修対象科目の一部は一般選択科目となっている。これに対して、令和3年度以降の入学生に対しては、本プログラムにおける履修対象科目を全て必修科目で構成している。そのため、在籍する全学科の学生が本プログラムを履修することとなる予定である。これに伴い、履修率が令和7年度には100%となる予定である。	S	

## 【評価基準】

S:評価の観点について、十分に基準を満たしている。

A:評価の観点について、基準を満たしている。

B:評価の観点について、改善の必要がある。